

日々の祈り

2022年1月24日(月)~29日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・コロナ禍の中、兄弟姉妹とその家族、愛する人々の健康と日々の歩みが守られるように。
- ・地震で不安の中にある人々に平安があるように。
- ・争いや貧困、また災害で苦しみの中にある人々のために。

24日(月)

ルカによる福音書 20章 38節

神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。神さまは命の源です。神さまに造られたわたしたちは、神さまに向かってこそ生きることが出来るのです。生まれる前も、今も、将来も、わたしたちは神さまに結ばれているなら、生きている者とされます。イエスさまの復活は、その恵みの確かな約束です。

25(火)

ローマの信徒への手紙 6章 4~5節

わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。

救いを信じ、洗礼によってイエスさまの中へと深く浸され、一つにされたわたしたちは、驚くほどに分かち難くイエスさまと結ばれています。罪に捕らわれていたわたしたちは、イエスさまの十字架の死にあずかり、共に死にました。そして、復活のイエスさまに結ばれて、わたしたちは新しい命に生きるのです。キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。わたしたちもまた、復活にあずかります。

26日(水)

詩編 16 編 10~11 節

あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず命の道を教えてください。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／右の御手から永遠の喜びをいただきます。

「命の道」は、命の源である神さまの許にあります。この方の許に、永遠の喜びがあります。そして、この命の道こそ、神の御子イエスさまです。イエスさまが十字架の苦しみと死によって拓いて下さった「命の道」を、わたしたちは教えられています。この方の御跡に従い、この方の道を歩いていきたいのです。

27日(木)

ヨハネによる福音書 3 章 16 節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。

神さまは、わたしたちを罪から救うために、その独り子を救い主として、わたしたちにお与え下さいました。そうして来られた救い主イエスさまは、神さまの愛そのものであり、救いの恵みそのものです。旧約聖書の時代から約束され、イエスさまが十字架の死と復活によって実現して下さいました救いです。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るために。

28日(金)

詩編 110 編 1~2 節

わが主に賜った主の御言葉。「わたしの右の座に就くがよい。わたしはあなたの敵をあなたの足台としよう。」主はあなたの力ある杖をシオンから伸ばされる。敵のただ中で支配せよ。

次の主日礼拝の御言葉です。旧約聖書の詩編におけるダビデの歌です。ダビデは自身の子孫から、神さまが救い主を与えて下さるということを預言しています。しかしまた、その来たるべき救い主は、ダビデの子孫でありながら、ダビデの存在をも大きく超えた、ダビデ王自身さえも「主」と呼ぶお方であり、わたしたちのまことの「王」、わたしたちの「主」ともなられるお方です。

29日(土)

ルカによる福音書 20 章 41 節

イエスは彼らに言われた。「どうして人々は、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。…」

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまは、確かにダビデの子孫からお生まれになった「メシア」、救い主です。しかしある人々は、自分たちの聖書の読み方に従って、イエスさまは救い主ではないと判断しています。本当のメシアであるならば、ダビデ王のように活躍するはずだ（「メシアはダビデの子だ」の意味）と、自分たちの基準でイエスさまを判断し、否定しているのです。しかし、救い主として来られた神の御子を、誰がどのような知識で判断し、合格か不合格かを決めることが出来るのでしょうか。わたしたちは、救い主として来て下さったイエスさまを、信じて受け入れることしか出来ません。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』